



昭和医科大学横浜市北部病院 地域医療連携 医療機関向け ニュース

No.30

2026年4月号
(年4回発行)



発行/地域医療連携室

〒224-8503

横浜市都筑区茅ヶ崎中央35-1

電話：045-949-7151

- 専門看護師・認定看護師の専門性を、地域へ（中面）
- 北部病院からのお知らせ（裏面）

消化器内科

最新事情



消化器内科診療科長・教授
おおつか かずお
大塚 和朗

2026年4月に消化器センター長及び消化器内科の診療科長・教授に就任いたしました大塚和朗と申します。当センターは、消化器内科と消化器外科が一体化して診断から治療までスムーズに連携した消化器診療を行ってまいります。

私は、研修医のころより工藤進英 前消化器センター長から大腸内視鏡の指導を受けて、大腸腫瘍の内視鏡診断を学んでまいりました。2001年の横浜市北部病院開設時から当消化器セン

ターに勤務し、2012年に前任地へ異動して以後も当センターで非常勤講師として内視鏡診療を続けてまいりました。

これからも、工藤 前センター長が提唱する患者さんを大腸癌で失ってはいけないという理念に変わりはありません。過不足なく可能な限り患者さんに負担の小さい治療を推進し発展させてまいります。さらにAIを活用した診療支援は、これからも当センターの重要なテーマとして開発を続けていきます。

私自身は、炎症性腸疾患と小腸内視鏡を専門としております。炎症性腸疾患は10代から30代の若年者に発症することが多く、潰瘍性大腸炎とクローン病は厚生労働省の指定難病になっているものの、適切な医療を行うことにより健常者と変わらない活動ができるようになってきました。近年の多様な作用機序による分子標的薬の登場がこれを可能にしております。難病ではありますが稀少疾患ではなく、本邦の患者数は潰瘍性大腸炎が30万人、クローン病が5万人を越えており、日常診療でも遭遇することの少なくない疾患です。若年者に消化管出血や痔瘻がみられる場合は鑑別に入れておきたいです。また、小腸内視鏡については当センターが開発に参画したシングルバルーン内視鏡を活用して、クローン病に対する診断や狭窄拡張など内視鏡治療を行うとともに、小腸出血や小腸腫瘍など上部消化管内視鏡や大腸内視鏡では到達困難な部位の消化管疾患にも対応してまいります。

今後もこれまでの経験を活かして、地域の皆さまに質の高い医療を提供できるよう努めてまいります。

地域医療機関のみなさまへ

消化管出血、消化器疾患で治療に難渋する場合や炎症性腸疾患など、このような患者さんがおられましたら、ご紹介ください。今後も皆さまと連携し、安心できる安全な医療を提供できるよう努めてまいります。よろしくお願い申し上げます。



専門看護師・認定看護師の専門性を、地域へ

専門性を「病院内の力」から「地域の力」へ

当院には現在、3領域4名の専門看護師、10領域17名の認定看護師が在籍しています(表1)。専門看護師・認定看護師は、それぞれの分野において高度な知識と実践力を活かし、患者さんやご家族が安心して療養生活を送れるよう、多職種と連携しながら支援にあたっています。

これまで私たちは、院内を中心に活動してきました。専門性を活かし、スタッフを支える存在として活動してきたことは、地域医療を支えるうえで大切な人的資源となっています。

しかし、医療や介護を取り巻く環境が変化するなかで、私たちはあらためて問い直しました。

「この専門性を、院内だけでなく地域でも活かせるのではないか」
「地域の皆さまと共有できることがあるのではないだろうか」と。

地域のクリニック、訪問看護ステーション、高齢者施設、福祉事業所など、それぞれの現場では日々、多様な課題に向き合っておられることと思います。感染対策、褥瘡予防、認知症ケア、がん療養支援、食事や嚥下の問題など、私たちの専門的な視点を共有させていただくことで、現場の皆さまの安心や自信につながる場面もあるのではないかと考えています。

私たちは、この専門性を、院内だけでなく地域でも活かせるのではないかと考えています。施設の垣根を越えて学び合い、相談し合い、顔の見える関係を築くこと。顔の見える関係づくりが進めば、入退院支援や在宅療養への移行もよりスムーズになり、患者さん・利用者さんが住み慣れた地域で、安心して暮らし続けられる支えにつながるのではないかと考えています。

●(表1) 在籍している専門看護師・認定看護師の分野

専門看護師	認定看護師	
老人看護	皮膚排泄ケア	感染管理
がん看護	緩和ケア	摂食嚥下
急性・重症患者看護	がん化学療法	慢性心不全
	認知症看護	新生児集中
	救急看護	小児救急看護

専門性を地域で活かし、
地域とともに育つ。

私たちはその一歩を
踏み出します。



来年度は、地域の皆さまのニーズを伺いながら、研修会や事例検討会、出張講座、個別相談などのアウトリーチ活動を少しずつ広げていく予定です。「こんなテーマで話してほしい」「現場で困っていることがあるから来てほしい」など、どんなことでも結構です。

ぜひ皆さまの声をお聞かせください。

認知症ケア認定看護師



認知症の方が安心して生活できる環境づくりや、行動・心理症状への対応を支援します。地域では、ご本人の思いを大切にしたり関わり方の工夫、混乱や不安を軽減する環境調整、家族支援などを一緒に考えます。

「対応が難しく職員が疲弊している」「家族との関係づくりに悩んでいる」といった課題に対し、現場で実践しやすい具体的な方法を共有しながら一緒に検討します。

入退院時の情報共有や在宅移行支援も含め、切れ目のない支援体制づくりを目指しています。

感染管理認定看護師



感染症の予防や拡大防止を専門としています。施設内での感染対策体制づくり、マニュアル整備、研修支援、アウトブレイク時の対応検討のサポートなどを行います。

地域においては、クラスター発生時の初期対応の整理、ゾーニングや個人防護具の使用方法の見直し・共有、職員教育のサポートなど、現場に即した実践的な支援を行います。「この対応でよいのか不安」「保健所対応と並行して何をすべきか一緒に整理したい」といったご相談にも、地域の状況に合わせて伴走いたします。

皮膚・排泄ケア認定看護師



褥瘡（床ずれ）予防や創傷管理、ストーマケア、失禁ケアなどを専門としています。地域では、体圧分散の工夫やポジショニングの見直し、スキンケア用品の選定、難治性創傷へのケア方法の提案などを通して、日々のケアを支援します。

「この傷はこのままでよいのか」「受診のタイミングはいつか」といった対応に悩まれた際でも、早期相談につながる関係づくりを大切にしています。

入院・外来・在宅が切れ目なくつながるように、地域の皆さまと連携して取り組んでまいります。

がん看護専門看護師



がん治療を受ける方やご家族の療養支援を専門とし、症状緩和、意思決定支援、在宅療養への移行支援など、治療の段階を問わず継続的に支援します。

地域の医療機関や訪問看護師の皆さまと連携しながら、「治療」と「生活」の両立を支えることを大切にしています。

退院前カンファレンスや在宅療養中の症状変化への対応なども、必要に応じてご相談いただけます。

摂食・嚥下障害看護認定看護師



「食べること」「飲み込むこと」を支える専門家です。誤嚥予防、食形態の工夫、姿勢調整、口腔ケアの助言など、安全に食事を続けるための支援を行います。

地域では、「むせが増えてきた」「食事量が減ってきた」などの小さな変化を見逃さないことが重要と考えています。

多職種と連携しながら、できるだけ長く“口から食べる”喜びを支えられるよう取り組みます。

慢性心不全看護認定看護師



心不全は、増悪と寛解を繰り返しながら長く付き合っていく病気です。慢性心不全看護認定看護師は、息切れやむくみなどの症状管理、体重管理、服薬支援、再入院予防のための生活指導を専門としています。地域では、「少し息苦しいが受診が必要か迷う」「体重が増えてきたが様子を見てよいのか」といった早期サインへの対応が重要と考えています。訪問看護や施設職員の皆さまと情報共有を行い、悪化を未然に防ぐ支援体制づくりを進めていきます。

まずはご相談ください

- 施設内研修（感染対策／褥瘡予防／認知症ケア など）
- 事例検討会への参加
- ケア方法の現地アドバイス
- マニュアル作成支援
- 退院前カンファレンス参加
- 地域連携カンファレンス開催支援

お問い合わせ先

昭和医科大学横浜市北部病院看護部
専門看護師・認定看護師担当
TEL：045-949-7906（看護部直通）
メール：hclark@cmed.showa-u.ac.jp
受付時間：平日8：30～17：00

北部病院からのお知らせ

1 新入職員が入職しました

4月1日、明治神宮会館にて学校法人昭和医科大学の入職式が挙行されました。今年度の新入職員818名のうち142名（内訳：臨床研修医24名、専攻医29名、看護師57名、助産師5名、臨床研修薬剤師9名、臨床検査技師4名、臨床工学技士3名、理学療法士2名、作業療法士3名、言語聴覚士1名、放射線技師1名、視能訓練士1名、保育士1名、事務職員2名）が当院で新たな一歩を踏み出すことになりました。

まだまだ未熟で不慣れな点もあり、皆さまにはご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、よろしくお願いいたします。

2 地域医療連携フォーラムの開催について

第35回地域医療連携フォーラムを次のとおり開催し、講演会及び懇親会に、病院内外から137名の参加がありました。ありがとうございました。

日時・場所：2026年2月13日（木）19時15分から21時、新横浜グレイスホテル

座長：宮崎内科クリニック 院長 宮崎 直道 先生

講演：心不全 ～急性期の入院治療と慢性期の食事療法～

演者：急性心不全／心原性ショックに対する入院治療について 循環器内科 講師 岡部 俊孝
心不全の食事療法 栄養科 管理栄養士 渡辺 藍夏

2026年度の地域医療連携フォーラムは次のとおり予定しています。開催日が近づきましたら、当院ホームページやチラシでご案内させていただきますので、ご参加のほどお願い申し上げます。

第36回	2026年 6月25日（木）	
第37回	2026年 11月25日（水）	※水曜日の開催
第38回	2027年 2月25日（木）	



3 病診連携研修会の予定

名称	内容	日時	開催場所	担当医師等・連絡先
都筑区内科医会 地域連携勉強会	講演	4月21日（火） 19:30～20:30	北部病院 西棟4階講堂	内科 加藤 雅典 haru-k@med.showa-u.ac.jp (内科秘書 河野)
2026年度 第1回横浜市北部 緩和ケア研修会	事前 e-learning 及び集合研修	5月17日（日） 9:00～17:00	北部病院 西棟4階講堂	管理課 緩和ケア講習会担当 nhkanri@ofc.showa-u.ac.jp 045-949-7108
甲状腺眼症地域連携 フォーラム in 神奈川	講演 ※終了後、情報 交換会	6月18日（木） 19:00～20:15	青葉台フォーラム	眼科 遠藤 貴美 045-949-7000（代表）

4 北部病院 ゴールデンウィーク対応（2026年）

日付	曜日	休日名	診療状況
4月	28日	火	通常診療
	29日	水	昭和の日 休診
	30日	木	通常診療
5月	1日	金	通常診療
	2日	土	通常診療
	3日	日	憲法記念日 休診
	4日	月	みどりの日
	5日	火	こどもの日
	6日	水	振替休日

※救急対応を原則とし、救急、初診、紹介、並びに通院中の方で状態変化による臨時再診をお受けします。

※紹介状がない場合は選定療養費（11,000円）が別途発生する場合があります。